奈良県立大学　奈良県との連携事例

自治体の課題（ニーズ）



豊富な歴史文化資源や文化財を有する奈良県では、それらの保存と有効的な活用が求められている。
脆弱な文化財を後世に残すためには、3次元計測を行い、そのデータを記録保存・アーカイブ化することが喫緊の課題である。加えて、そこで得られたデータを、展示やイベント、ワークショップ等において、一般の方々にどのように伝えたらよいのか、その具体的な方策を検討している。

研究成果（シーズ）の還元


VR体験


触れるレプリカ


来訪者参加型展示

展示では、できるだけ親しみやすいデジタルコンテンツを使って、来訪者に奈良県の文化財の魅力を体験してもらうことを第一に考え、VR体験や触れることのできるレプリカ、制作過程をわかりやすく伝える展示物の制作等に努めた。
また、ワークショップは、次世代を担う子どもたちを対象として行われるため、作りやすいものでありながらも、当初の制作素材や技法に倣った企画も考えるなど、若年層に文化財に触れてもらうことを意識した。

※なら歴史芸術文化村
（https://www.pref.nara.lg.jp/site/bunkamura/index.html）

■　この連携に携わった研究者



副学長
山田　修　教授

（研究者の経歴等）

※　研究者の経歴等は（URL：https://researchmap.jp/yamaos）をご参照下さい。